

一般社団法人 日本森林学会
2023 年度第 1 回（通算第 484 回）理事会 議事録

日時：2023 年 4 月 14 日（金）13:00～17:20

場所：日林協会館 5 階中会議室，Web 会議システム（Microsoft Teams）を併用して開催

開催者：丹下 健

出席者：会長）丹下 健，副会長）太田祐子，正木 隆，理事）陣川雅樹，伊藤 哲，溝上展也，石崎涼子，長池卓男，井上真理子，久保田多余子，黒田慶子，船田 良，枚田邦宏，大久保達弘，小山泰弘，梶本卓也，深町加津枝，監事）福田健二，主事）小田智基，山川博美，吉藤奈津子，鈴木秀典，鶴田燃海，森 英樹，杉浦克明，玉井幸治，稲永路子，長谷川陽一，檀浦正子，櫃間 岳，園原和夏，編集部）町田庸子〔学会誌刊行センター〕，事務局）稲村崇子，オブザーバー）徳留善幸〔林野庁〕，千葉利幸〔全林試協〕（会長代理），永松 大〔第134回大会運営委員会〕（委員長代理），宗岡寛子〔森林総研〕（次期総務主事）

議長：丹下 健

Web 会議システム（Microsoft Teams）にて，理事会が定款に定める定足数を満たし成立していること，出席者全員が問題なく参加できており適時的確な意見表明が互いにできることを確認し，議案の審議に入った。

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下のとおりである。

1. 2022 年度事業報告

陣川理事（総務担当）から提案され，2023 年定時総会の承認を求めることとなった。

2. 2023 年度事業計画の修正

陣川理事（総務担当）から，2022 年度第 6 回メール理事会で承認済みの 2023 年度事業計画について，(3) 日本森林学会誌の発行「日林誌の月刊オンライン OA（オープンアクセス）ジャーナル化」を「日林誌のオンラインジャーナル化」に変更すること，(10) 日本森林学会各賞の選考及び日本農学賞等への学会推薦「日本学術振興会賞，日本学術振興会育志賞，日本農学進歩賞，日本農学会賞について，会員からの推薦を受け付けたが，推薦は無かった」を「日本学術振興会賞，日本学術振興会育志賞，日本農学進歩賞，日本農学賞について，会員からの推薦を受け付ける」とする修正案が提案され，提案の通り承認された。

3. 次回理事会・定時総会，総会時のシンポジウムの持ち方について

陣川理事（総務担当）から，2023 年 5 月 31 日の理事会・定時総会を現地と Web 会議の同時開催とし，公開シンポジウムは別日程とすることが提案され，提案のとおり承認された。

4. 会員名簿の印刷・配布の廃止

陣川理事（総務担当）から，会員名簿の印刷・配布を廃止し，事務局で使用している会員データベースの管理のみとすることとし，「1-1 日本森林学会会員規則」，「2-11 日本森林学会収入支

出内規], 「4-4 日本森林学会会員案内」を改正することが提案され, 提案の通り承認された。

5. 日林誌のオンラインジャーナル化に伴う会員案内の改正

陣川理事(総務担当)から, 会員区分の変更に伴う「4-4 日本森林学会会員案内」の改正について提案され, 提案の通り承認された。

6. 2022 年度決算報告

伊藤理事(会計担当)から, 2022 年度決算報告について提案があり, 提案の通り承認され, 2023 年定時総会の承認を求めることとなった。本部事業は 383 万円の赤字であったこと, 予算では 591 万円の赤字を見込んでいたが決算では 383 万円の赤字に圧縮されたこと, 133 回大会事業は黒字が発生し, 大会事業の黒字は利息を加算した 823,102 円を指定正味財産へ繰り入れたこと等が説明された。

7. 2023 年度予算の修正

伊藤理事(会計担当)から, 2022 年度第 6 回メール理事会で承認済みの 2023 年度予算について, 半期決算の期末決算への変更, 印刷物収入の減額, 会誌等刊行費支出の減額, 消耗品費支出の計上, 単年収支では 125 万円の赤字予算となるが特別積立金の取崩は行わないとする修正案が提案され, 提案のとおり承認された。

8. 「3-1 日本森林学会誌投稿規定」の改訂

長池理事(日林誌編集担当)から, 投稿原稿の内容を「未発表のものに限る」としているが, 口頭やポスター発表はこの限りではないとする文言を追加する改訂案が提案され, 表現を再検討することで承認された。

9. 「J-STAGE Data での論文データ公開について」の改定

長池理事(日林誌編集担当)から, 「J-STAGE Data」以外のデータリポジトリサーバーを使用する場合の対応や, データの著作権者でない場合の著者の対応について追加する改定案が提案された。一部文言の修正後, 提案の通り承認された。

10. 「2-7 Journal of Forest Research 編集委員会内規」の改定

溝上理事(JFR 編集担当)から, 特集企画において特集担当編集委員に替わって新たに特集限定副委員長を設置する改定案が提案され, 提案のとおり承認された。

11. JFR 編集担当主事の交代

溝上理事(JFR 編集担当)から, 次期主事候補として志水克人会員(森林総合研究所四国支所)に委嘱することが提案され, 提案の通り承認された。

12. 表彰担当主事の交代

小杉理事(表彰担当)に代わり玉井主事から, 次期主事候補として宮本尚子会員(森林総合研究所林木育種センター東北育種場)に委嘱することが提案され, 提案の通り承認された。

13. 「3-7 日本森林学会メールマガジン発刊要領」の改正

正木理事（広報担当）から、メールマガジンの記事の字数、発刊スケジュールや提出方法について限定せず、幅を持たせた表現に修正する改正案が提案され、提案のとおり承認された。

14. 2022 年度の林業遺産候補

深町理事（林業遺産担当）に代わり檀浦主事から、2022 年度の林業遺産候補として能登のアテ林業と北山川の筏流し技術の 2 件を選定することが提案され、提案の通り承認された。

15. 前回までの議事録の承認

2022 年度第 4 回（通算第 483 回）理事会・連携学会合同会議、4 回のメール理事会（2022 年度第 3, 4, 5, 6 回）の議事録が承認された。

報告事項：

本理事会で報告された事項は以下のとおりである。

1. 第 134 回大会（鳥取大学）の開催報告

山中理事（大会担当）に代わり、永松大会運営委員から、研究発表と学会企画、各種式典はオンライン開催、公開シンポジウムのみ鳥取市の会場とオンラインとのハイブリッド形式で開催し、公開シンポジウム「森と生きる～智頭林業の取り組みから」には 499 名の視聴参加があり盛況であったこと、大会参加者は 1,142 名で、発表件数 739 件（口頭 205 件、ポスター 534 件）であったこと、oVice を用いた交流スペースを公式に開設したこと等が報告された。大会運営について、総務担当やプログラム編成担当とともに定期的なオンラインミーティングを行うことで運営がスムーズに進んだことが報告され、今後は総務担当やプログラム編成担当が運営を主導し、大会運営委員会にも参画するという方式が望ましいとの報告があった。議論の中で、参加費やハイブリッド等の開催方式について理事会と大会運営委員会のどちらに決定権があるのか等、理事会と大会運営委員会の役割について検討を進める必要があるとの意見が出された。

梶本理事（プログラム編成担当）から、学術講演集の印刷版を発行準備中であること、プログラム編成委員と公募セッション・企画シンポジウムのコーディネータを対象とした大会アンケートを集計中であること、大会プラットフォームへのアクセス情報が報告された。今後アンケート結果を踏まえて次回大会からのハイブリッド開催などの課題について検討を進めていく予定であることが報告された。

2. 第 135 回大会（東京農業大学）の開催準備報告

陣川理事（総務担当）から、大会開催日程と開催場所について報告された。開催日程が 3 月上旬に早まるため、大会スケジュールを 9 月中には決定する必要があること、高校生ポスターの企画には対面だと参加できない学校があることや、開催日程が小学校の学期中であることから現地参加できない会員がいる可能性があるため一部ハイブリッド開催を検討した方が良い等の意見が出された。大会運営の引継ぎについて、総務が日程調整を行い、大会運営の課題について検討を進めることとなった。

3. 監事監査報告

陣川理事、福田監事から、2023 年 4 月 10 日（月）に実施した監事監査について報告があった。

4. 総務担当からの報告

陣川理事から、5件の共催・後援・協賛依頼の承認について報告された。

5. 日林誌編集担当からの報告

長池理事から、投稿審査状況、J-STAGE Dataにおけるデータ公開状況、編集委員の交代、日林誌投稿時の注意点を示した「論文投稿をされる・された著者のみなさまへ」を学会ウェブサイトに掲載すること、掲載論文の訂正費用、オンラインジャーナルへの円滑な移行が完了したこと、査読者への謝辞を2-3年に一度掲載することが報告された。

6. JFR 担当からの報告

溝上理事から、「Forest policy and social sciences」セクション担当の常任編集委員を1名増員し、岩永青史氏（名古屋大学）に委嘱すること、2022年の予想IFが1.3程度であること、JFR出版状況、特集企画・Invited Reviewの掲載予定、年間出版原稿数の管理を変更し1号あたり9~10報とすること、物故者を著者に含める場合の申し合わせ事項を改定し、氏名に「†」をつけて脚注として「(Author name) is deceased」と表記すること、JFR論文賞へのT&F社からの賞金提供について、出版トラブル対応、データペーパーの導入を検討中であることが報告された。

7. 森林科学編集担当からの報告

石崎理事から、主事の交代、編集委員の交代、「森林科学」の発行状況、電子版「森林科学」の会員パスワードの通知をメールマガジンでの案内のみにすることが報告された。

8. 表彰担当からの報告

小杉理事に代わり玉井主事、稲永主事から、第134回大会の授賞式及び受賞者講演会について多くの視聴参加があり盛況であったこと、第134回大会の学生ポスター賞は183件の応募があり18名に賞を授与したこと、日本学術振興会賞に会員からの推薦が1件あり学会から推薦したこと、1年間に予定されている主な学術賞の選考スケジュールが報告された。

9. 広報担当からの報告

正木理事から、ウェブサイトを修正しツイッターの一部をトップページに表示するデザインに変更したこと、ツイッターの運用状況、受賞者講演と公開シンポジウムの動画をYouTubeにアップロードしたこと、大会サイトの更新作業は広報担当理事が行うという体制は効率が良かったこと、メールマガジンの発行状況が報告された。

10. 企画担当からの報告

井上理事（企画担当）及び小山理事（国内研究連携）から、第134回大会において学会企画「地方公設林業試験場とは何か？ 求む地域や大学との関わり」を企画担当と国内研究連携担当の合同で開催し、約150名の参加者あり好評であったこと、森林科学の魅力を紹介するための公開行事を6月16日（金）15:00からオンライン開催することが報告された。

11. ダイバーシティ推進担当からの報告

久保田理事から、第134回大会においてダイバーシティ推進シンポジウム「留学・研修を通じ

て見えてくる多様な価値観や考え方」を開催し、78名の参加者があったこと、録画動画を会員限定で来年3月まで公開予定であること、会員サポート企画は「ゆるっと話そう あつまれ！がっかいの森」をoViceにて開催し、29名の参加者があったこと、1件の大会期間中の託児申請があったこと、男女共同参画学協会連絡会運営委員会に出席したことが報告された。

12. 林業遺産担当からの報告

深町理事に代わり、檀浦主事から、2023年度の林業遺産の選定スケジュールについて報告された。

13. 中等教育連携推進担当からの報告

太田理事に代わり園原主事から、第134回大会において第10回高校生ポスター発表を開催し発表件数は19校30件、当日参加者は50名（概数）であったこと、最優秀賞2件、優秀賞3件、特別賞3件を決定し、学会企画「大学での森林の学びや研究を知ろうー高校生と大学生との交流ー」の中で表彰式を実施したことが報告された。また、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成によりポスター集の印刷を行い、参加校に2023年度「森林科学」を1年間配布すること、大日本山林会の支援により、受賞校記念の楯、参加記念品を贈呈したことが報告された。

14. 国内研究機関連携推進担当からの報告

小山理事から、第134回大会での学会企画を実施したこと、全林誌協が主催するセミナーに協力したことが報告された。

15. 国際交流担当からの報告

大久保理事から、第134回大会において学会企画「帰国留学生会員およびアジアの林学会とのネットワークフォーラム」を開催し、15件の発表があり、オンライン交流会に9名の参加があったことが報告された。また今後の課題として、第135回大会が対面開催になった場合の国際交流企画の継続性や国際交流委員会の設置、韓国や中国以外との交流を検討中であることが報告された。

議事録作成者：陣川雅樹，小田智基